銀行勘定の金利リスク（IRRBB）計算結果報告書

銀行名 : **PT. Bank Jtrust Indonesia, Tbk (個人顧客)**
報告基準日 : **30 September 2026**
通貨 : **IDR株式価値（IDRおよびUSD）**

dalam jutaan

単位：百万ルピア	ΔEVE		ΔNII	
期間	2026年9月30日	2026年6月30日	2026年9月30日	2026年6月30日
パラレル・アップ（上方パラレルシフト）	(480,186)	(332,478)	(239,396)	(254,764)
パラレル・ダウン（下方パラレルシフト）	362,045	173,659	25,853	30,349
スティープ化（傾き急進化）	174,779	114,542		
フラット化（傾き平坦化）	186,036	190,110		
短期金利上方	149,783	163,415		
短期金利下方	269,966	220,149		
最大減少値（絶対値）	***480,186***	***332,478***	**239,396**	**229,568**
	Tier 1 資本（ΔEVEの場合）		***予測収益（ΔNIIの場合）***	
期間	**2026年9月30日**	**2026年6月30日**	**2026年9月30日**	**2026年6月30日**
Tier1資本（ΔEVEの場合）または予想収益（ΔNIIの場合）	***3,382,691***	***3,395,353***	**839,890**	**1,043,011**
最大値をTier1資本（ΔEVEの場合）または予想収益（ΔNIIの場合）で除した比率	***14.20%***	***9.79%***	**28.50%**	**24.43%**

銀行勘定の金利リスク（IRRBB）管理方針開示報告書

銀行名 : **PT. Bank Jtrust Indonesia, Tbk (個人顧客)**
報告基準日 : **2026年9月30日**
通貨 : **IDR株式価値（IDRおよびUSD）**

定性分析

1 リスク計測・管理におけるIRRBBの定義

銀行は、リスク計測および管理を行うに当たり、IRRBBを、金利変動に対する資産と負債の感応度の差異から生じるリスクと定義している。金利リスクを評価する際には、バランスシートを構成するすべての項目の金利変動に対する感応度を慎重に考慮する必要がある。

2 IRRBBのリスク管理およびリスク軽減戦略

a. 銀行は、銀行勘定の金利リスクに関する計測ガイドラインを策定するとともに、IRRBBエクスポージャーを調整し、IRRBBリスク管理プロセスの高度化を図ることにより、リスク管理およびリスク軽減戦略を構築している。
b. 本報告書作成時点において、銀行はIRRBBを対象とする個別のヘッジ取引を実施していない。

3 銀行によるIRRBB算定の頻度およびIRRBBに対する感応度の計測に使用する具体的な計測手法

a. 銀行によるIRRBBの算定頻度は、以下のとおりである。
   1) 市場リスク・プロファイル報告書の一環として、3月、6月、9月および12月末時点のポジションに基づき、四半期ごとに算定する。ただし、モニタリングの実効性を高めるため、IRRBBのモニタリングは毎月実施し、その結果をリスク管理委員会に報告している。
   2) 銀行の健全性水準に関する自己評価の一環として、6月末および12月末時点のポジションに基づき、半期ごとに算定する。
b. 銀行は、金利感応的な銀行勘定のポジションを区分し、重要通貨建ての各エクスポージャーについて、6つの金利シナリオに基づき、自己資本の経済価値（EVE）の変動額（ΔEVE）を算定している。重要通貨とは、当該通貨建てのエクスポージャーが銀行勘定の資産合計または負債合計の5%以上を占める通貨をいい、各ポジションは19のタイムバケットに区分される。

4 EVE法およびNII法によるIRRBB算定に使用する金利ショック・シナリオおよびストレス・シナリオ

OJK通達第12/SEOJK.03/2018号に従い、銀行はΔEVEについて、以下のシナリオを適用している。
a. パラレル上方ショック
b. パラレル下方ショック
c. スティープ化ショック
d. フラット化ショック
e. 短期金利上方ショック
f. 短期金利下方ショック

ΔNIIについて、銀行は以下のシナリオを適用している。
a. パラレル上方ショック
b. パラレル下方ショック

5 IRRBB計測に使用する主なモデル前提は、以下のとおりである。

No.	前提／パラメータ	概要
a.	*モデル前提の適合性*	銀行が使用するすべてのIRRBBモデル前提は、標準的手法および監督当局の規定に基づいており、適用される規定と異なる独自の手法は使用していない。
b.	*EVE－ランオフ型バランスシート*	EVEの算定にはランオフ型バランスシート・アプローチを採用している。このアプローチでは、満期を迎えた資産および負債を新たな金融商品で置き換えない。ただし、残存するバランスシート・ポジションの資金手当てに必要な取引を除く。
c.	EVEにおけるマージンおよび割引率	EVEの算定では、キャッシュ・フローに含まれる商業マージンおよびスプレッド要素を考慮し、報告基準日現在のリスクフリー・レートを割引率として使用している。
d.	満期のない預金（NMD）	銀行は、満期のない預金（NMD）を、その安定性の特性に基づき、コア預金と非コア預金に区分している。 コア預金については、顧客の行動特性およびリプライシングに係る上限を考慮した銀行内部モデルを用いて、行動特性に基づくリプライシング・プロファイルを設定している。当該コア預金は非金融機関の顧客から調達されたものであるため、各種シナリオに
e.	定期預金中途解約率（TDRR）	TDRRモデルでは、利用可能な最長期間の過去データを用い、EWMA（指数加重移動平均）法を採用している。TDRRは、満期日前に中途解約された定期預金の金額を定期預金残高で除して算定し、IRRBBにおけるタイムバケットへの割当てを決定するために使用している。
f.	貸出金期限前返済率（CPR）	期限前返済リスクにさらされている資産エクスポージャーは、固定金利資産合計の0.44%にとどまり、重要性がない。このため、リプライシング・ギャップの算定には、変動金利貸出金のリプライシングに適用される前提を使用している。
g.	組込オプション	資産、負債またはオフバランス項目に組み込まれたオプション特性を有する金融商品のうち、IRRBBの計測に重要な影響を及ぼすものはない。
h.	変動金利貸出金のリプライシング	変動金利貸出金のリプライシング期間は、債務者のセグメントに基づき決定している。法人向け貸出金には1か月超3か月以下のタイムバケットを適用し、個人および中小零細企業（MSME）向け貸出金には3か月超6か月以下のタイムバケットを適用している。個別の金利基準または特定の契約条件を有する資産については、それぞれの資産の契約条件に従ってリプライシング期間を決定して
i.	ΔEVEの計測	ΔEVEは、金利ショック・シナリオによって生じる資産、負債およびオフバランス項目の正味現在価値の変動に基づき算定している。なお、自己資本はEVEの算定対象から除外している。
j.	ΔNIIの計測	ΔNIIは、ベースライン・シナリオにおける純金利収益と、金利ショック・シナリオにおける純金利収益との差額に基づき算定してい
k.	通貨の取扱い	IRRBBは、重要通貨であるIDRおよびUSDについて、それぞれの通貨に対応する割引イールドカーブおよび金利ショック・シナリオを使用し、通貨ごとに個別に算定している。重要性のない通貨については、USD建てエクスポージャーに合算している。

定性分析

6 ΔEVEおよびΔNIIの算定に使用する主要なモデル前提およびパラメータに関する包括的な説明

a. Δ EVE

(i) 2026年9月30日現在の自己資本の経済価値変動額（ΔEVE）によるIRRBB計測の結果、パラレル上方ショック・シナリオにおいて、経済価値が4,801億8,600万ルピア（480.186 billion IDR）減少する可能性が示された。これはTier 1資本の14,20%に相当する。2026年6月30日現在の9,79%と比較すると、エクスポージャーは4,41%上昇した。

(ii) ΔEVEエクスポージャーの増加は、主として金利感応資産と金利感応負債のリプライシング・プロファイルの差異によるものである。短期タイムバケットでは、金利感応負債が金利感応資産を上回っている。特に、O/Nから1か月までのタイムバケットにおけるリプライシング・ギャップは、マイナス23.29%となっており、資産に対する負債の構成比が高いことを示している。

一方、1か月超3か月以下のタイムバケットでは、主として貸出金の影響により、30.94%のプラスのリプライシング・ギャップが生じている。この状況は、資産と負債のリプライシング時期にミスマッチが存在し、金利変動に対する銀行の経済価値の感応度を高めていることを示している。ただし、ΔEVEエクスポージャー全体は、引き続き銀行のリスク許容限度内にある。

b. Δ NII

2026年9月30日現在の純金利収益変動額（ΔNII）の計測結果、最大のリスクはパラレル上方ショック・シナリオにおいて発生し、純金利収益が2,393億9,600万ルピア（239.396 billion IDR）減少する可能性が示された。これは予想収益の28.50%に相当する。2026年6月30日現在の24.43%と比較すると、エクスポージャーは4.07%上昇しており、金利変動に対する純金利収益の感応度が高まったことを示している。

ΔNIIエクスポージャーの増加は、主として短期タイムバケットにおけるマイナスのリプライシング・ギャップ及び利息を生み出す収益資産（Interest-earning assets）の割合を減少させる不良債権（NPL）の増加によるものである。金利感応負債、特に預金等の第三者資金の割合が、同一期間内にリプライシングされる資産の割合を上回っている。一方、大部分の貸出金は、より長期のタイムバケットにリプライシング期間が設定されている。このため、金利上昇シナリオにおいては、貸出金利収益の調整が資金調達コストの上昇よりも遅れて生じる。

ただし、後続するタイムバケットにおいて資産のリプライシングが行われるため、初期のリプライシング期間経過後は、純金利収益に対する下押し圧力が緩和されることが見込まれる。銀行は、IRRBBエクスポージャーを所定のリスク許容限度内に維持するため、引き続きリプライシング・ギャップの構造をモニタリングしている。

定性分析

7 NMDに適用する平均リプライシング期間

NMDに適用する平均リプライシング期間は48日であり、1か月超3か月以下のタイムバケットに該当する。コア預金の構成比および平均リプライシング期間は、以下のとおりである。

		IDR建てNMD		USD建てNMD	
No.	コア預金セグメント	コア預金に占める割合 (in %)*	平均リプライシング期間	コア預金に占める割合 (in %)*	平均リプライシング期間
1	ホールセール	50.00%	1ケ月超3ケ月以下	50.00%	1ケ月超3ケ月以下
2	取引性リテール	1.04%	3ケ月超6ケ月以下	1.42%	3ケ月超6ケ月以下
3	非取引性リテール	40.21%	1ケ月超3ケ月以下	23.07%	1ケ月超3ケ月以下

*商業銀行における銀行勘定の金利リスクに対するリスク管理およびリスク計測の実施ならびに標準的手法について定めたOJK通達第12/SEOJK.03/2018号に基づく、コア預金割合の上限適用後。

8 NMDに適用する最長リプライシング期間

2026年第3四半期に、非取引性リテールNMDのリプライシング期間は1か月超3か月以下のタイムバケット、取引性リテールNMDは3か月超6か月以下のタイムバケット、ホールセールNMDは1か月超3か月以下のタイムバケットにそれぞれ区分される。